

治安の悪化が問題になっている。先般には、韓国の武装スリ団(もはやスリと言うには、優しすぎる、強盗団と言うべきだろう。スリはテクニックを必要とするが強盗は全く違う。)による犯行が明らかになり、中国人留学生による一家惨殺事案も記憶に新しい。何とも荒っぽい犯罪だ。不法就労者等による犯罪も急増している。更には、女子児童による同級生殺害事件、中学生による男子投げ落とし事件等、凶悪事件の低年齢化が問題となっている。

かつて日本は、世界で最も安全な国と言われ、夜間に女性が一人歩きが出来る事に来日外国人が吃驚したと謂われたものだ。田舎では一寸した外出ぐらいでは、隣家に一声掛けるだけで、家に鍵など掛けなかったものである。

そういう国が何時しか年間の刑法犯発生件数が 300 万件に迫り、刑法犯の検挙率もかつては 60%程度であったものが、今では 20%程度と低迷している。

凶悪犯罪の増加、青少年犯罪の増加、外国人犯罪の増加犯罪の広域化・組織化が特徴である。

治安回復は待った無しの状況にある。日本は、重大な岐路に立たされていると言っても過言ではない。世界一安全と謳われた日本を早く取り戻さねば、とり返しがつかなくなる。

警察も手を拱いている訳ではない筈だが、残念だが、一向に改善される兆しが見えない。地域においても自警団を結成して犯罪予防に取り組み始めたり、NPO 法人を設立して地域をパトロールする、そういう地域も澎湃としておきつつある。

東京都も治安回復に向け警察官僚を副知事に登用し、神奈川も警察官の増員を公約とした知事が当選している。

前ニューヨーク市長のジュリアーニ氏の取り組みは評価されて良い。科学的分析と破れ窓理論と称される小さな犯罪をも決して見逃さないで対処した事により、抜本的に治安が回復したのである。

何故我国の治安が斯くまで悪化したのだろうか。犯罪は社会を映す鏡である。日本社会の現状を概観すれば、不法就労の外国人が 30 万人弱も存在しており、一方日本社会全体のモラルの低下は目を覆うばかりでもあり、且つ家庭も地域も学校も責任を他に転嫁するのみで夫々が夫々の責任を果たしていない。警察も急増する犯罪に追いつかない。変な人権意識に妨げられて誰しもが傍観者たるの立場に立とうとする。子供を恐れて注意すらしない。見て見ぬふりをする。そういう世の中になった。下手に注意などするものなら、如何な意趣返しを受けるか解らない。その子の親に逆恨みもされかねない。

先日、東京メトロの最新の南北線に乗ったが、線路に人が落ちないようにしっかり防護されている。会社側の管理責任云々を問われたくないのだろう。学校も公園も何処もかしこも管理責任を負わせられることに戦々恐々している。何処か可笑しくないか、否可笑しいということにすら気付かなくなっている。何かが狂い始めている。若い女性が足を投げ出して電車に乗り、人目も憚らずお化粧するなど珍しくも無くなった。

公園にしても道路やその他の公共の場所に空缶やゴミを捨てる事に何ら罪悪感を感じない。そういう者に限って自分の家だけは綺麗にしている。その矛盾に気づかない。大人が率先してそういう事をするものだから子供はそれを当然と信じてしまう。子供の手本どこ

るか親にすらなる資格がない。只、単に動物的・肉欲的な行為の結果としての子供であれば、しっかり躰もし、社会の役に立つ人間らしい人間に育てよう等との親たるの責任を放棄している証左である。

斯様に学校も家庭も社会も地域社会を明るくする事に積極的な役割を果たそうとしない、三竦みの状態が続いている。この状態からどうやって抜け出るか、それが日本社会再生の鍵であり、日本の治安悪化脱却の根本的な処方箋だと信じる。一見迂遠ではあるけれども、此処に手をつけない限り真の治安回復はない。対処療法も必要だが、それのみで解決出来るほど甘くはない。